

- 進んで学び自ら正しく判断し、行動する子ども
- 人を大切にし、豊かな心をもつ子ども
- たくましく生きぬく子ども

城野

＝ 共 育 ＝

学力特集号
平成30年11月22日

北九州市城野小学校
校長 藤井 創一

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使う問題は正答率が高かった。自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が低かった。書く力を問う問題に課題があるといえる。
国語B	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が高かった。話しての意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめ記述する問題の正答率が低かった。記述式の正答率の低さが、他の問題形式より目立つ。書く活動を充実させる必要がある。
算数A	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。計算領域は前年度に比べ下回ったが、図形領域に関しては改善傾向がみられる。円周率の意味についての問題が全国平均を上回っている。1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上表す問題の正答率が低かった。
算数B	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、記述式の問題以外はほぼ無解答はない。棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題が全国平均を上回っている。折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題が全国平均を上回っている。示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する問題の正答率が低かった。
理科	全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。主として「知識」に関する問題に課題がある。実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題が全国平均を上回っている。実験結果から電流の流れについて、より妥当な考えに改善する問題の正答率が低かった。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対し、肯定的な回答をした割合は全国平均を上回った。これからも、子どもたちが「分かる・できる」と実感できるような授業改善を継続していく必要がある。 ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。自尊感情が高くなってきていることから、児童が将来を展望できるようになってきていることがわかる。 ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、肯定的な回答をしている児童が全国平均を大きく上回った。教師と児童の好ましい関係や、わからないことを気軽に聞くことができる学級の雰囲気がつづられているといえる。 ・「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。日々の授業における観察や実験を、児童が主体的・対話的に行っている成果であるといえる。 ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」などの、生活面に関する質問に対して、肯定的な回答をした割合が全国平均を下回った。児童の生活実態を把握し改善していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・児童が「分かる・できる」を実感できるような、個に応じた支援を取り入れた授業改善。(ワーキングメモリアセスメント)
- ・視点を明確にした「振り返り」の時間の設定による、「書く」指導。
- ・朝の活動の内容を下記のように設定し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る時間を確保する。
(月:音読タイム 火:国語タイム・読み聞かせ 水・金:算数タイム 木:読書タイム)
- ・放課後に補充学習を下記のように設定し、授業でつまづいた問題や、復習問題等を個別に指導する。
(月:1・2・5・6年、火:3・4・5・6年、金:1・2・3・4年)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・本校で作成した「学習・生活の手引き」を配布し、生活習慣や学習習慣について保護者に周知する。
- ・月始めの1週間を「家庭生活・学習週間」と位置付け、各家庭に家庭生活・学習がんばりカードを配布し、基本的な生活習慣の様子を保護者とともに確認して記述できるようにする。また、配布物の裏に「学習・生活の手引き」の抜粋を載せ、保護者に周知する。
- ・全国学力・学習状況調査の課題と取組等を学校便り・学校HPで保護者へ周知することで、家庭と連携し協力体制を整える。